

概

況

# 概況

## 1. 取扱高

### (1) 年間取扱高

平成5年中（1月5日から12月30日、開市日数 271日）の総取扱数量は 782,782t で、前年比96.9%と前年を下回り、総取扱金額は 748,203百万円で、前年比92.9%と前年を下回った。総取扱数量が80万tを割ったのは昭和43年以来25年ぶり、また総取扱金額が 8,000億円を割ったのは昭和63年以来5年ぶりである。総平均価格は 956円で、前年に比べ40円安となった。取扱数量では、鮮魚は、カツオ、輸入メバチなどが増加したが、ハマチ、スルメイカ、サンマなどが減少し、全体では 3.1%減となった。活魚は、活マタイ、活アナゴなどが増加し、全体で 1.6%増となった。冷凍魚は、国内スルメ、ギンダラなどが増加したが、本年も全般に減少し、全体では 8%減となった。加工品は、最終的にはほぼ前年並みの実績を確保し、全体では 0.6%増となった。取扱金額では、鮮魚は 4%減、活魚は 1.3%増、貝類は 6.3%減、冷凍魚は 13.4%減、淡水魚は 7.2%減、海藻類は 4.8%減、加工品は 3.7%減となった。平均価格では、鮮魚は 1%安、活魚は 0.3%安、貝類は 4.7%安、冷凍魚は 0.6%安、淡水魚は 9.6%高、海藻類は 6.7%安、加工品は 4.3%安となった。

### (ア) 生鮮品

鮮魚の取扱数量は 186,230t で、前年比96.9%とやや減少し、平均価格は 1,032円で、前年比10円安となった。主要品目で見ると、サンマは、入荷は 1.9割減となり、平均価格は、11円高となった。カツオは大豊漁で漁期も長く、入荷は 4.5割増となった。平均価格は 253円安となった。マイワシの入荷は 0.5割減で、平均価格は、13円安となった。マグロ類は、輸入マグロが 2.3割増、国内物が 2.2割増、メバチは輸入物が 3.9割増に対し国内物が 1.8割減、キワダ（国内）が 1.8割減、メジが半減となり、全体では 0.5割増となった。平均価格は、30円安となった。スルメイカは 1.3割減で、平均価格は11円高となった。マアジは前年からわずかに増加し、平均価格は、16円安となった。養殖ハマチは 2割減となり、平均価格は 126円高となった。活魚の取扱数量は 13,622t で、活マタイ、活アナゴなどが増加し、前年比 101.6%となった。平均価格は 1,885円で 5円安となった。生鮮貝類の取扱数量は、53,232t で前年比98.2%となった。平均価格は 925円で、45円安となった。主要品目で見ると、アカ貝が 1.6割減で22円高、アサリは 0.4割減で 5円安、アワビは 1.2割減で86円安、トリ貝は 1.2割増で 157円安、アオヤギは 1.5割減で61円高、ムキカキは 0.4割減で 9円安、ムキホタテ貝は 0.4割増で 112円安となった。生鮮淡水魚の取扱数量は 3,438t で、前年比91.3%と減少し、平均価格は 1,405円で、96円高となった。主要品目で見ると、アユが 0.3割減で、58円安となった。ウナギが 1.4割減で 220円高となった。

### (イ) 冷凍品

冷凍魚の取扱数量は 226,675t で、前年比92.0%と減少し、平均価格は 1,011円で、前年比64円安となった。主要品目で見ると、冷エビ類は、インドネシア物の 0.8割増に対し、フィリピン物が 2.0割減、タイ物が 1.7割減、中国物が 1.1割減などとなり、全体では 0.7割減となった。平均価格は 1,514円で、前年比 144円安となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 2.1割減となり、全体では 1.9割減となった。平均価格は 694円で、前年比 219円安となった。冷イカ類は、国内スルメが 2.5割増、モンコウが 2.4割減で、全体では 0.5割減となった。平均価格は 592円で、14円安となった。冷マグロ類は、冷キワダは 5割増だが、主

力の冷メバチが 0.9割減などで、全体では 0.8割減となった。平均価格は 1,731円で、前年比87円高となった。その他の冷凍魚では、冷サバが 0.8割減で、平均価格は74円安となった。冷スリミはわずかに減少して、平均価格は 227円安となった。冷凍貝類の取扱数量は 5,641t で、前年比98.9%となった。平均価格は 1,228円で、前年比70円安となった。主要品目で見ると、冷ホタテ貝は 0.7割増で、平均価格は 116円安となった。冷アワビは 3.8割減となり、平均価格は 1,651円高となった。冷凍淡水魚の取扱数量は 310t で、前年比47.0%となった。平均価格は 950円で、51円高となった。

### (ウ) 加工品

加工品の取扱数量は 285,983t で、前年比 100.6%とわずかに増加した。平均価格は 828円で、前年比37円安となった。主要品目で見ると、焼物製品は、蒲焼ウナギが 0.4割減となったが、全体では 0.3割増となった。平均価格は 1,920円で 8円安となった。塩干品は、開干サンマが 1.1割減となり、全体でも 0.3割減となった。平均価格は 529円となり、37円安となった。塩蔵品は、塩アキサケが 0.9割減となったが、塩ベニサケが 2.4割増、スケコが 1.3割増、品薄感の強かったイクラも年末に入荷が増え、全体では 0.2割増となった。平均価格は 1,629円で 136円安となった。煮干製品は、煮干イワシが 1割増、シラス干が前年並み、コウナゴが 1割減で、全体ではわずかに減となった。平均価格は 1,223円で 202円高となった。

## 1月

☆鮮魚 取扱数量 13,474t (対前年比 97.0%)  
平均価格 1,118円 ( " 48円安)

取扱数量では、メバチは、輸入物が 3.7割増、国内物が 2.7割増、マグロ（輸入）が 2.5割増となった。前年大豊漁のメジは 6.6割減、キワダ（輸入）は 4.3割減となった。マタイは、養殖物が 5.2割増に対し、輸入物は 2.7割減、カレイ類は 3.8割増、スルメイカは 2.1割増となった。キンメは 4.2割減、カツオが 1.6割減、サンマも 1.1割減となった。平均価格では、マグロ（輸入）が 2.5割高、メジが 2.4割高、キンメが 2.6割高、カツオが 2.1割高となった。メバチは、国内物が 1.7割安、輸入物も 1.5割安、キワダ（国内）は 1.4割安となった。カレイ類は 2.7割安、スルメイカが 2.4割安、ヤリイカも 1.7割安、マタイ（養殖）が 1.6割安、マイワシが 1.3割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,005t (対前年比 96.8%)  
平均価格 1,781円 ( " 38円安)

取扱数量では、活カレイが 2.5割増、活カンパチが 1割増となり、活スズキが 2.7割減、活タコが 1.8割減、活ハマチが 1.6割減となった。平均価格では、活タコが 3.3割高、活スズキが 2.3割高、活カンパチが 1.9割高となり、活カレイが 1.6割安、活アナゴが 1.3割安、活マタイが 1.2割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,606t (対前年比 92.2%)  
平均価格 1,049円 ( " 24円高)

ムキホタテ貝などが増加したが、アカ貝が大幅に減少したほか、シジミ、アオヤギ等も減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 15,005t (対前年比 83.4%)  
平均価格 1,067円 ( " 13円安)

取扱数量では、冷マグロ類は、キワダが 6.4割増も主力のメバチが 2.1割減で、全体では 1.4割減となった。冷イカ類は、SAスルメが 6.7割減となり、全体でも 1.6割減となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 6.2割減となり

全体でも 4.2割減となった。冷タイ類は 5.2割減、冷カニ類は 2.5割減、冷エビ類は 1.8割減となった。ニシンが 8.8割増、ギンタラが 5.5割増となり、スリミは 3.7割減、冷サバは 1.1割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチが 2.5割高で、全体でも 1.7割高となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 4割安で、全体でも 2.6割安となった。冷タイ類は 1.7割高となった。冷カレイ類は 2.2割安となった。スリミは 5割安、ギンタラが 3.5割安、サバが 2.6割安、サンマが 2.3割安、ニシンが 2割安となった。

☆加工品 取扱数量 18,956t (対前年比 93.9%)  
平均価格 783円 ( " 5円安)

取扱数量では、塩蔵品が全般に減少し 1.5割減、切身加工品が 1.1割減、素干品が 0.6割減となった。平均価格では、塩蔵品は、イクラが 4割高、スジコが 2.3割高で全体では 0.5割高となった。煮干製品は、シラス干が 4.3割高で全体でも 2.2割高となり、切身加工品も 1.2割高となった。しかし、その他は全般に安い。

## 2月

☆鮮魚 取扱数量 13,897t (対前年比 94.8%)  
平均価格 1,130円 ( " 26円高)

取扱数量では、マグロは国内物が 2倍増、輸入物は 3.4割減、メバチは輸入物が 2割増、国内物が 1.8割減、キワダは国内物が 2.9割減、輸入物も 2.8割減、メジが 1.7割減となった。マタイは養殖物が 5.8割増、輸入物が 1.9割減、カレイ類は 3.8割増となった。キンメは 3.1割減、サバが 2.5割減、カツオが 1.6割減となった。平均価格ではキワダ(国内)が 3.9割高、カレイ類が 2.4割安、カツオ、キンメ、サバがいずれも 1.2割高となり、マタイは国内物、養殖物ともに 2割安となった。

☆活魚 取扱数量 989t (対前年比 97.3%)  
平均価格 1,811円 ( " 45円安)

取扱数量では、活マタイが 1.8割増、活カンパチが 1割増となった。活ハマチは 1.6割減、活タコが 1.5割減、活ヒラメが 1.3割減、活スズキが 1.1割減となった。平均価格では、活タコが 1.3割高、活アナゴが 1.2割高となった。活マタイは 2.2割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,808t (対前年比 90.7%)  
平均価格 978円 ( " 61円高)

アカ貝、アオヤギが 3割減、カキ、ハマグリも減少し、全体でも約 1割減となった。

☆冷凍魚 取扱数量 18,466t (対前年比 93.7%)  
平均価格 983円 ( " 42円安)

取扱数量では、冷タイ類が 2.3倍増、冷カレイ類が 5.5割増、冷カニ類が 1.3割増となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが半減し、3.4割減となった。冷マグロ類は、キワダが 8.9割増となるもメバチが 2割減で、1.4割減となった。冷イカ類は、国内スルメが 6.6割増も、モンゴウが 4.5割減で、全体では 0.5割増にとどまった。ギンタラが 3倍増、スリミが 3.9割増、ニシンが 2.6割増となり、サバは 3.1割減、タコは 2.3割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチが 2.6割高、キワダが 1.1割高で、全体でも 1.7割高となった。冷イカ類は、国内スルメが 2.9割安に対し、モンゴウが 4.2割高で、全体では 1.3割高となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 3.5割安で、全体でも 2.4割安となった。冷カレイ類は 3割安、冷タイ類が 1.7割安、スリミが 5.3割安、ギンタラが 3.2割安、サバが 2割安となった。

☆加工品 取扱数量 21,283t (対前年比 92.2%)  
平均価格 794円 ( " 4円高)

取扱数量では、焼物製品は 1.4割増となった。塩蔵品は塩アキサケが 7割減、イクラが 3.1割減、ベニサケも 2.8

割減など、全体でも 1.8割減となった。その他も、シラス干が 2.7割減など、全般に減少した。平均価格では、塩蔵品は、塩サケがアキサケ以外 2割以上安いものの、イクラが 4.4割高、スジコが 1.2割高など、全体で 6割高となった。煮干製品は、シラス干が 5割高で、全体で 2.1割高、切身加工品が 1.8割高、素干品は 1割安となった。

## 3月

☆鮮魚 取扱数量 15,611t (対前年比 102.7%)  
平均価格 1,139円 ( " 4円安)

取扱数量では、マグロは国内物が 5.4割増、輸入物が 2.2割増、メジが 3.4割増となり、メバチは輸入物が 6.5割増に対し国内物は 2.9割減、キワダは国内物が 1.3割減、輸入物も 3.8割減となった。カレイ類が 2.5割増、マタイ(養殖)は 7割増、キンメが 6.1割増、カツオも 2.2割増となった。ヤリイカは 2.4割減、スルメイカが 1.2割減となった。平均価格では、キワダ(国内)が 3.3割高、メジが 1.9割高、ヤリイカが 1.7割高、ハマチが 1.5割高となった。カレイ類は 1.7割安、マグロ(国内)が 2.9割安、キンメが 2.4割安、マタイは養殖物が 1.8割安、輸入物が 1.4割安、ヤリイカが 1.7割安、カツオが 1.3割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,171t (対前年比 101.0%)  
平均価格 1,966円 ( " 29円高)

取扱数量では、活マタイが 1.7割増となったほか、活アナゴ、活カンパチも増加した。活ハマチは 1.4割減、活タコは 1.1割減となった。平均価格では、活ハマチが 2.2割高、活アナゴが 1.6割高、活カンパチが 1.3割高となり、活マタイが 1.4割安、活タコが 1.2割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,309t (対前年比 101.7%)  
平均価格 932円 ( " 7円安)

アオヤギ、アカ貝が減少したが、ハマグリ、トリ貝、サザエなどが増加した。

☆冷凍魚 取扱数量 20,446t (対前年比 97.8%)  
平均価格 1,015円 ( " 25円安)

取扱数量では、冷カレイ類が 2.8割増、冷カニ類が 1.5割増、タコは 1.8割増、スリミが 4倍増となった。冷マグロ類は、キワダが倍増したが、メバチが 2.3割減、インドも 1.1割減で、全体で 1.1割減となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 1.4割増に対し、シロサケが 2.8割減で、全体では 1.1割減となった。冷イカ類は、国内スルメが 6.2割増、ムキイカも 2.2割増となったが、モンゴウが 3割減で、全体ではほぼ前年並みとなった。冷タイ類は 3.7割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチが 2.2割高で、全体でも 1.9割高となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 3割安で、全体で 1.9割安となった。冷イカ類は、国内スルメが 2.8割安で、全体でも 1.1割安となった。冷カレイ類は 2.9割安、スリミは 4.5割安、サバが 3.5割安、ギンタラは 3.4割安となった。

☆加工品 取扱数量 25,355t (対前年比 103.0%)  
平均価格 784円 ( " 35円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩ギンサケが 3.1割増、塩ベニサケが 2.6割増、スケコが 1.7割増に対し、塩アキサケが 6.4割減、イクラが 3.4割減、スジコが 1.2割減で、全体では 0.2割増にとどまった。塩干品は、煮干イワシが 7.6割増で全体では 0.7割増、練製品は、チクワが 2.1割増、カマボコが 1.4割増で、全体では 0.5割増となった。煮干製品は、シラス干が 1.6割減となり、全体では 0.2割減となった。切身加工品は 1.3割減となった。平均価格では、切身加工品が 1.5割高、煮干製品は、シラス干が 5.5割高で、全体では 0.2割高となった。素干品は、干スルメが安く 1.8割安、練製品は、チクワ、カマボコとも下がっ

て 0.7割安、塩蔵品は、イクラ4割高、スジコ 1.8割高に  
 対し、塩サケが安く全体で 0.4割安となった。

4月

☆鮮魚 取扱数量 14,815 t (対前年比 94.7%)  
 平均価格 1,125円 ( " 16円高)

取扱数量では、マグロは国内物が 5.3割増、輸入物が  
 4.6割増となった。メバチは輸入物は 2倍増だが国内物は  
 4.6割減、キワダも輸入物は 2.2割増となったが、国内物  
 は 6.4割減となった。マタイは養殖物が 8.8割増に対し、  
 輸入物が 2.5割減、カニ類は 1.6割増、マアジとキンメは  
 とともに 1.5割増、カツオは 1.1割増となった。スルメイカ  
 は 2.6割減、ハマチが 2.2割減、マイワシが 1.9割減、サ  
 バが 1.3割減、サンマが 1割減となった。平均価格では、  
 メジが 4.3割高、キワダは国内物が 6.1割高に対し、輸入  
 物が 2割安、マグロ (国内) が 2.3割安、メバチは国内物  
 が 1.9割安、輸入物が 1.2割安となった。ハマチは 2.4割  
 高、サバが 2.1割高、サンマが 1.6割高となり、カツオは  
 1.7割安、マタイ (養殖) とキンメがともに 1.5割安、カ  
 ニ類は 1.1割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,199 t (対前年比 99.9%)  
 平均価格 1,889円 ( " 変わらず)

取扱数量では、活マタイが 1.1割増、活アナゴが 1割増  
 に対し、活タコが 1.5割減、活ヒラメが 1割減となった。  
 平均価格では、活カンパチが 3.3割高、活ハマチが 3割高、  
 活タコが 1.6割高となった。活マタイが 1.9割安、活スズ  
 キが 1割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,796 t (対前年比 96.9%)  
 平均価格 923円 ( " 60円安)

サザエ、ホタテ貝などが増加したが、アオヤギ、アワビ、  
 アカ貝、シジミなどが減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 22,214 t (対前年比 92.1%)  
 平均価格 988円 ( " 31円安)

取扱数量では、冷カレイ類が 1割増、冷イカ類は、国内  
 スルメが 3.9割増、モンゴウが 1.7割減で、全体では 0.9  
 割増となった。冷タイ類は 7.7割減、冷カニ類は 1.8割減、  
 冷マグロ類は、キワダが 2.7割増も、インドが 2.9割減、  
 メバチが 1.4割減で、全体でも 1.7割減となった。冷サケ  
 ・マス類は、ベニサケが 3.7割減、シロサケも 3.3割減で、  
 全体では 1割減となった。スリミは 2倍増、ギントラが  
 5.8割増、ニシンが 1割増となった。サワラは 2.1割減、  
 サバは 1.6割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、  
 インドが 2.8割高、メバチが 1.8割高で、全体では 2.1割  
 高となった。冷タイ類は 4割高となった。冷イカ類は、国  
 内スルメが 2.9割安、モンゴウが 1.2割高で、全体ではほ

ぼ前年並みとなった。冷サケ・マス類は、シロサケの 2.3  
 割高に対し、ベニサケが 4.2割安で全体で 2.7割安となっ  
 た。カレイ類は 1.6割安、サワラが 2割高、ニシンが 1割  
 高となり、スリミが 5.2割安、サバが 2.6割安、ギントラ  
 が 2割安、タコが 1.4割安となった。

☆加工品 取扱数量 24,506 t (対前年比 96.5%)  
 平均価格 827円 ( " 4円高)

取扱数量では、塩蔵品は、塩ベニサケが 6.5割増となる  
 も、塩アキサケが 6.5割減、イクラが 4.1割減などで 0.5  
 割減となった。煮干製品は、シラス干が 1.7割増も全体で  
 は 1割減となり、素干品は、干スルメが 1.7割減で全体で  
 も 0.5割減となった。平均価格では、煮干製品は、シラス  
 干が 3.5割高で、全体でも 3.9割高となった。素干品は、  
 干スルメが安く 1.8割安、練製品がチクワ、カマボコとも  
 安く 0.8割安、塩蔵品はイクラが 5.7割高のほかは塩サケ  
 が 2~3割安く、全体では 0.2割安となった。

5月

☆鮮魚 取扱数量 15,944 t (対前年比 103.5%)  
 平均価格 957円 ( " 65円安)

取扱数量では、マグロは輸入物が 2.3倍増、国内物が  
 1.3割増、メジが 9.1割増となり、メバチは輸入物が 7.2  
 割増、国内物は 5.4割減となった。カツオが 5.5割増、ス  
 ルメイカが 3.4割増、マタイは養殖物が 9.6割増、天然物  
 が 2.2割増となった。ハマチは 2.8割減、サンマが 1.7割  
 減、マイワシも 1.7割減となった。平均価格では、メジが  
 1.8割高となったが、マグロ (輸入) は 2.4割安、キワダ  
 (国内) が 1割安、メバチも国内物が 2.2割安、輸入物が  
 1割安となった。ハマチが 2.4割高、サンマが 1.9割高と  
 なった。カツオは 4.7割安、スルメイカが 2.4割安、マ  
 タイは天然物が 2.4割安、輸入物が 2.1割安、養殖物も 1.3  
 割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,167 t (対前年比 103.4%)  
 平均価格 1,820円 ( " 11円高)

取扱数量では、活スズキが 4.4割増、活マタイが 1.5割  
 増となった。活カンパチは 2.4割減、活タコは 1.2割減と  
 なった。平均価格では、活ハマチが 3.5割高、活カンパチ  
 が 3.4割高、活タコが 1.6割高となった。活スズキは 2.9  
 割安、活マタイが 2.1割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,350 t (対前年比 94.9%)  
 平均価格 932円 ( " 28円安)

ホタテ、サザエが増加したが、アカ貝、アオヤギ、シジ  
 ミなどが減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 17,547 t (対前年比 89.7%)  
 平均価格 1,048円 ( " 10円高)

図1-1 総取扱数量の動き

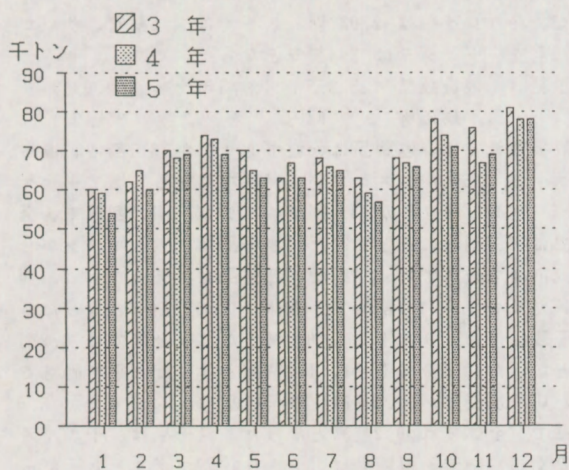


図1-2 総平均価格の動き

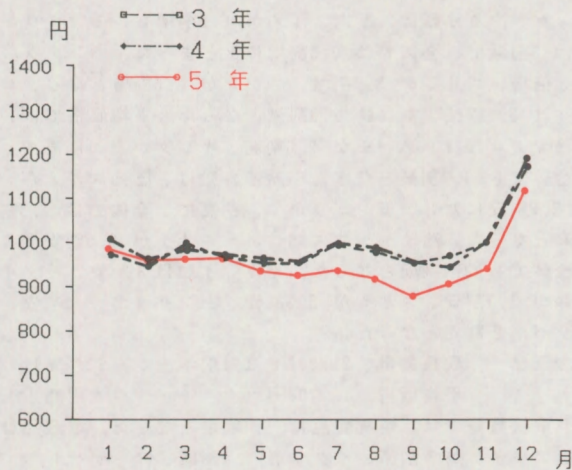


図2-1 鮮魚取扱数量の動き

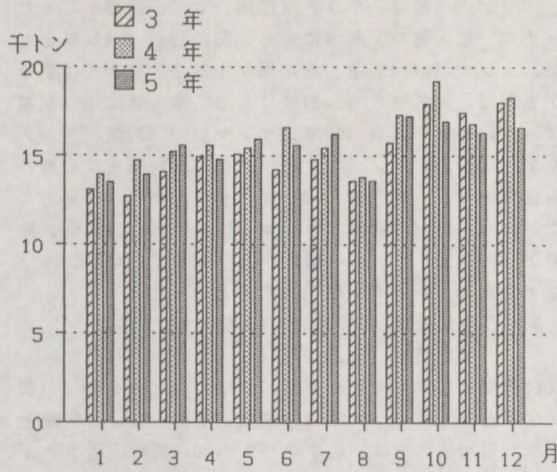
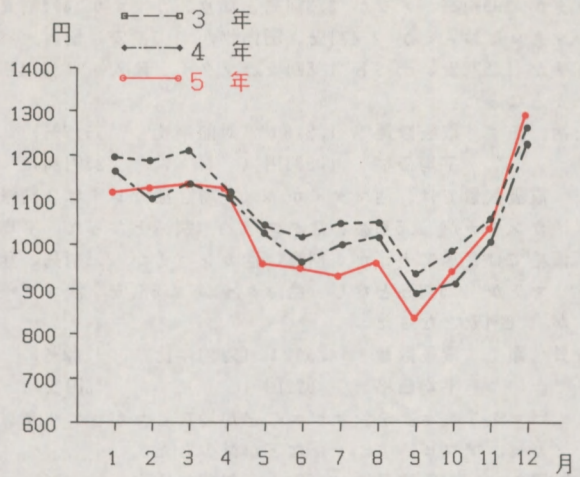


図2-2 鮮魚平均価格の動き



取扱数量では、冷イカ類は、国内スルメが 5.2割増だが全体ではほぼ前年並みとなった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 4.2割減、シロサケも 3.4割減だが、全体ではほぼ前年並みとなった。冷マグロ類は、キワダが 3.7割増もインドが 2.5割減、メバチが 1割減で、全体でも 1割減となった。冷タイ類が 4.5割減、冷カニ類が 4.2割減、冷カレイ類が 1.1割減となった。ギンタラが 1.5割増、スリミが 1.1割増に対し、サワラが 4.3割減、ニシンが 3.5割減、サバが 2.4割減、タコが 1割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、インドが 3.1割高、メバチが 1.8割高、キワダが 1.3割高で、全体で 1.6割高となった。冷カニ類は 2.1割高となった。冷カレイ類が 3割安、冷サケ・マスが 1.8割安、冷エビ類が 1.5割安となった。サワラが 2.1割高、ニシンが 1.1割高、スリミは 4割安、サバ、タコがともに 1.7割安、ギンタラが 1.2割安となった。

☆加工品 取扱数量 22,410 t (対前年比 95.7%)  
平均価格 797円 ( " 20円安)

取扱数量では、煮干製品は、シラス干が 2.3割増で全体で 0.9割増となった。塩蔵品は、塩ベニサケの 4割増に対し、塩アキサケが 6.2割減、イクラが 3.6割減で、全体では 1.1割減となった。塩干品は 1割減、素干品は、干スルメが 1.6割減で、全体では 0.6割減となった。平均価格では、煮干品は 1.3割高、素干品は、干スルメが 1.6割安で、全体では 1.3割安、練製品は 0.8割安、塩蔵品は、イクラが 5.2割高となったが、ベニサケなどが安く、全体では 0.2割安となった。

6月

☆鮮魚 取扱数量 15,612 t (対前年比 94.3%)  
平均価格 947円 ( " 14円安)

取扱数量では、マグロは、輸入物が 8.9割増、国内物が 2.4割減、キワダは、国内物が 2.8割増、輸入物が 3.6割増、メバチは輸入物が 7.2割増、国内物は 6.5割減となった。マタイ(養殖)が 2倍増、カツオが 5.9割増、カニ類が 1.2割増となった。ハマチが 3.2割減、サンマが 2.5割減、タラ類が 2.2割減、マイワシが 1.9割減、サバが 1.4割減となった。平均価格では、入荷激減のメジが 2.5倍高、マグロは国内物が 2.1割高、輸入物は 1.5割安、キワダ(輸入)とメバチ(国内)が 3.5割安となった。ハマチとサンマが 1.4割高、カツオは 4割安、マタイ(輸入)が 1.1割安、カニ類は 1割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,152 t (対前年比 100.1%)  
平均価格 1,912円 ( " 17円高)

取扱数量では、活スズキが 4.7割増、活マタイが 0.9割増となった。活カンパチは 1.8割減、活カレイが 1.3割減、

活タコが 1.2割減となった。平均価格では、活カンパチが 3.2割高、活ハマチが 1.7割高、活タコが 1.4割高、活アナゴが 1.2割高となり、活スズキは 3.1割安、活マタイは 1.7割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,350 t (対前年比 94.4%)  
平均価格 934円 ( " 47円安)

ハマグリ、ホタテ、サザエなどが増加、アサリ、アカ貝などが減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 17,970 t (対前年比 89.1%)  
平均価格 1,026円 ( " 49円安)

取扱数量では、冷イカ類は、国内スルメが 1.4割増もムキイカが 3.9割減、モンゴウが 2.3割減で、全体では 1.8割減となった。冷サケ・マス類は、シロサケが 4.4割減で全体で 1.7割減となった。冷カレイ類は 1.9割減、冷エビ類は 1.2割減となった。冷マグロ類は、キワダが 4.1割増となったが、メバチ、インドとも減少して全体では 0.9割減となった。冷タコは 1.5割増となったが、ニシンが 4割減、サバが 2.9割減、サワラが 2.5割減、ギンタラが 2.3割減となった。平均価格では、冷マグロ類が 0.9割高となったが、冷サケ・マス類は、ベニサケが 3.4割安で、全体で 1.9割安となった。冷カレイ類は 1.4割安、冷エビ類が 1割安、冷イカ類は、国内スルメが 2.9割安で、全体では 0.5割安となった。冷スリミが 4.9割安、冷タコが 2.4割安、冷サバが 1.8割安、ギンタラが 1.6割安となった。

☆加工品 取扱数量 23,098 t (対前年比 98.7%)  
平均価格 788円 ( " 21円高)

取扱数量では、素干品が 0.9割増、塩蔵品は塩ベニサケが 8.2割増、スケコが 3.6割増に対し、塩アキサケが 4割減、イクラも 2割減などで、全体ではほぼ前年並みとなった。切身加工品が 2.5割減、塩干品も 1割減となった。平均価格では、切身加工品が 1.8割高、煮干製品は、シラス干が 1.4割高で全体で 0.7割高。塩蔵品はイクラが 5.9割高のほかは安くほぼ前年並み。素干品は、干スルメが 2.3割安で全体で 1.9割安、練製品はチクワが 1.5割安で全体では 0.5割安となった。

7月

☆鮮魚 取扱数量 16,215 t (対前年比 105.3%)  
平均価格 932円 ( " 66円安)

取扱数量では、マグロは国内物が 6.3割増、輸入物が 2.8割増となった。メバチは輸入物は 6.8割増だが、国内物が 8.2割減、メジが 3.9割減、キワダ(国内)が 2.2割減となった。カツオが 8.2割増、マタイ(養殖)が 6.9割増、カニ類が 1.9割増となった。ハマチは 3.1割減、マタイ(天然)が 2.1割減、サンマが 2割減となった。平均価

格では、サンマが 3.6割高、ハマチが 2.7割高、国内キワダが 2.5割高、メジが 2.3割高となり、カツオが 4.8割安、マグロは輸入物が 2.4割安、国内物が 1.7割安、輸入メバチが 1.5割安、サバも 1.5割安、マタイ（輸入）は 1.4割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,219 t (対前年比 99.7%)  
平均価格 1,961円 ( " 36円高)

取扱数量では、活マタイが 2.5割増、活カレイは 2割減、活カンパチが 1.5割減、活タコが 1.4割減となった。平均価格では、活アナゴが 3割高、活カンパチが 2.8割高、活ハマチが 1.5割高となり、活マタイが 2.6割安、活スズキが 1.6割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,542 t (対前年比 97.2%)  
平均価格 972円 ( " 48円安)

ハマグリ、ホタテ、サザエなどが増加したが、アサリ、アカ貝、アワビ、アオヤギなどが減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 17,579 t (対前年比 83.8%)  
平均価格 1,062円 ( " 19円安)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、シロサケ、ベニサケとも 3.5割減となり、全体でも 2.4割減となった。冷イカ類は、S Aスルメの 5.7割減などで、全体では 1.4割減となった。冷マグロ類は、キワダが 5割増だがメバチが減少し、全体で 0.8割減となった。冷カレイ類は 2.4割減、冷カニ類が 1.8割減となった。スリミは 6.2割増だが、ニシンが 5.4割減、ギンダラが 3.6割減、サバが 3.4割減、タコが 3.2割減などとなった。平均価格では、冷マグロ類は、全体で 1割高となったが、冷サケ・マス類が 2.6割安、冷イカ類は、国内スルメが安く 0.4割安、冷スリミは 4.4割安、タコが 2.7割安、ギンダラが 2割安、サバ、サワラが 1.6割安となった。

☆加工品 取扱数量 24,273 t (対前年比 107.8%)  
平均価格 799円 ( " 62円安)

取扱数量では、干スルメが増加し、素干品全体で 2割増となった。切身加工品は 3.3倍増、練製品が 1.2割増、湯煮品が煮タコの増加で 1.2割増、焼物製品は 0.9割増、塩蔵品は塩サケ、スケコが増加したがイクラが品薄で全体では 0.4割増、煮干製品はシラス干が減少して 1.3割減となった。平均価格では、シラス干が 4.4割高となった煮干製品が全体でも 2.6割高となったほかは、湯煮品が 1.5割安、素干品が 1.4割安となった。塩蔵品はイクラ、アキサケが高いものの他が安く 0.8割安、焼物製品は前年並み。切身加工品は 6.6割安となった。

8月

☆鮮魚 取扱数量 13,618 t (対前年比 98.7%)  
平均価格 963円 ( " 54円安)

図3-1 貝類取扱数量の動き

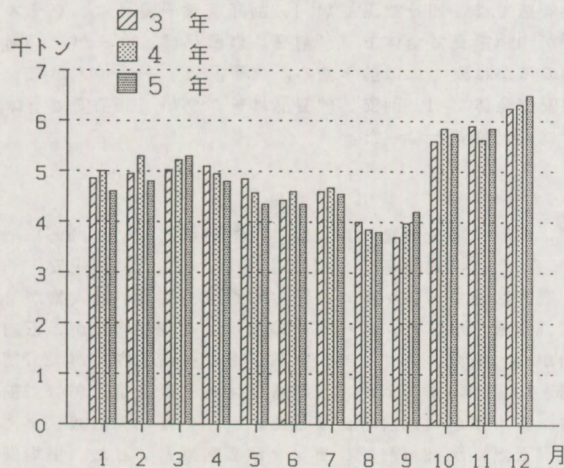
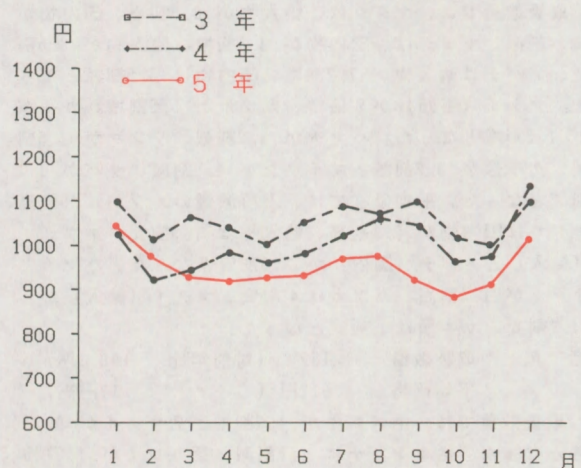


図3-2 貝類平均価格の動き



取扱数量では、前年少なかったマグロ（国内）が 3.4倍増、メジが 5.5割増、キワダ（国内）も 3.6割増となった。メバチは、輸入物の 1割増に対し、国内物が 5.8割減となった。カツオが 5.1割増、カニ類が 1割増、マタイは養殖物が 6割増、天然物の 2.2割増に対し、輸入物は 1.4割減となった。ハマチは 4.2割減、サンマが 3.3割減、スルメイカが 1.5割減、キンメ、マイワシが 1.3割減となった。平均価格では、ハマチが 3.3割高、サンマが 1.6割高となったが、メジが 4.9割安、マグロは国内物が 2.2割安、輸入物が 1.7割安、メバチ（輸入）も 1.6割安となり、カツオは 4割安、スルメイカが 1.3割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,029 t (対前年比 102.0%)  
平均価格 2,040円 ( " 39円安)

取扱数量では、活スズキは 2.3割増、活マタイは 1.4割増となった。活カンパチは 2.2割減、活タコは 1.7割減となった。平均価格では、活カンパチが 3.1割高、活アナゴが 2.3割高となり、活スズキは 3.1割安、活マタイが 2.4割安となった。

☆貝類 取扱数量 3,804 t (対前年比 98.6%)  
平均価格 979円 ( " 81円安)

ハマグリ、ホタテ貝、サザエなど増加したが、シジミ、アカ貝、アワビなどが減少した。

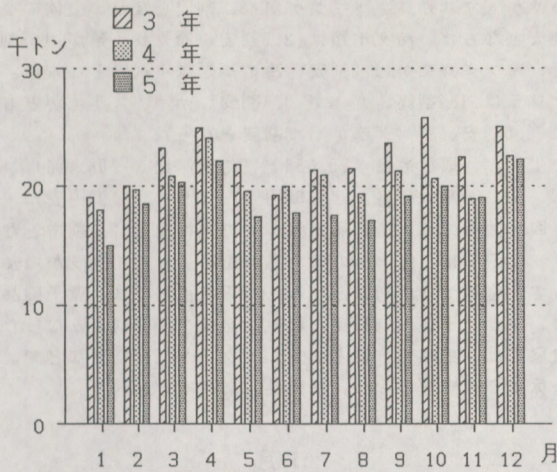
☆冷凍魚 取扱数量 17,063 t (対前年比 87.9%)  
平均価格 978円 ( " 106円安)

取扱数量では、冷イカ類は、国内スルメが 3.5割増、モンゴウが 2.1割減で、全体では 0.5割増となった。冷エビ類は 3.1割減、冷サケ・マス類は、シロサケが 6.8割減で、全体では 2.5割減となった。冷マグロ類は、キワダが 4.9割増もメバチが減少して、全体では 0.6割減となった。ギンダラは 5.2割増、タコが 2.6割増、ニシンが 7.9割減、サワラが 2.2割減、スリミは 1.4割減となった。平均価格では、冷サケ・マス類は、ベニサケが 3.9割安で、全体では 3.3割安。冷カレイ類は 1.8割安、冷エビ類が 1.1割安。国内スルメが 1.4割安で、冷イカ類全体で 0.8割安。冷マグロ類はほぼ前年並み。ニシンは 1.1割高、スリミは 3.6割安、タコが 2.9割安、ギンダラが 2.5割安、サバが 2.4割安、サワラは 1.8割安となった。

☆加工品 取扱数量 20,128 t (対前年比 102.6%)  
平均価格 782円 ( " 41円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが 6.3割増、シロサケが 4.4割増、イクラも 2.6割増など、全体で 1.7割増となった。この他、焼物製品が 2.5割減となったほかは全般に増加した。平均価格では、煮干製品はシラス干が 3.1割高で全体で 1.9割高となった。塩蔵品は、塩アキサケが 1.4割高などの他は安く、全体では 1.5割安となった。湯煮品が 1.6割安、焼物製品は 1.1割安となった。

図4-1 冷凍魚取扱数量の動き



9月

☆鮮魚 取扱数量 17,160 t (対前年比 98.9%)  
 平均価格 833円 ( " 56円安)

取扱数量では、メバチは国内物 6.6割増、輸入物が 3.1割増、マグロ(輸入)が 2.7割増、キワダ(国内)が 1割増となった。メジは 7割減、マグロ(国内)は 3.1割減、キワダ(輸入)は 1.7割減となった。マタイは、養殖物が 6.7割増、輸入物が 2.1割減、天然物が 1.2割減となった。カツオは 3.6割増、サバが 1.3割増、マイワシが 1.1割増となった。ハマチは 4.6割減、サンマは 2.2割減、キンメは 2.1割減となった。平均価格では、キンメが 3.3割高、ハマチが 2.8割高となった。カツオは 4.1割安、マイワシが 3割安、スルメイカが 2.2割安、サバが 1.9割安、メバチは輸入物が 2.3割安、国内物が 1.1割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,008 t (対前年比 101.5%)  
 平均価格 2,154円 ( " 34円高)

取扱数量では、活マタイが 1.5割増となり、活カンパチが 2.1割減、活スズキが 1割減となった。平均価格では、活カンパチが 3.4割高、活アナゴが 2.6割高、活ハマチが 1.4割高となった。活マタイは 2.1割安、活タコは 1.8割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,198 t (対前年比 105.8%)  
 平均価格 924円 ( " 123円安)

アワビが減少したが、サザエ、アオヤギが増加し、全体では増加となった。

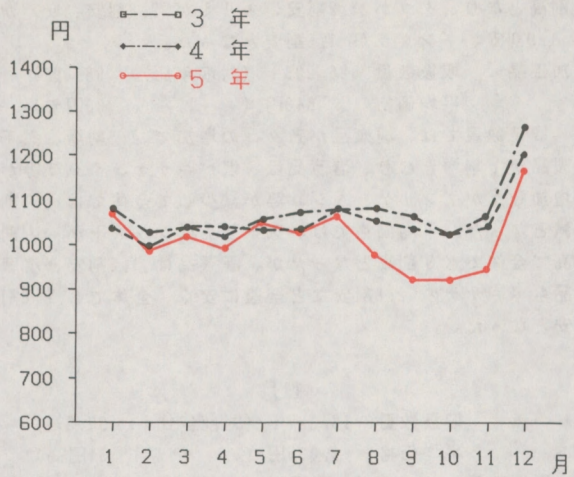
☆冷凍魚 取扱数量 19,224 t (対前年比 90.3%)  
 平均価格 921円 ( " 144円安)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、シロサケが 5.2割減、主力のベニサケも 1.5割減で、全体では 2.1割減となった。冷イカ類は、国内スルメが 3割増もモンゴウが半減し、全体では 1.4割減となった。冷マグロ類は、キワダが 4.1割増だがメバチが減少し、全体では 0.7割減となった。サバは 4.2割増、タコが 3.2割増、ギンダラが 2.3割増となった。冷エビ類は 1割減、サワラが 7割減、ニシンが 6.3割減、スリミが 3.7割減となった。平均価格では、冷サケ・マス類は、ベニサケが 2.7割安で、全体では 2.3割安となった。冷カレイ類は 2.2割安、冷カニ類が 1.7割安、冷エビ類が 1.6割安、冷イカ類は国内スルメが下がって 1.4割安となった。サワラが 2.1割高、ニシンが 1割高となり、タコが 3.5割安、スリミが 2.9割安、サバが 2.5割安、ギンダラが 1.8割安となった。

☆加工品 取扱数量 23,730 t (対前年比 104.2%)  
 平均価格 822円 ( " 20円安)

取扱数量では、煮干製品は、煮干イワシが 5.5割増となり、全体で 2割増となった。湯煮品は煮タコが 2.8割増で

図4-2 冷凍魚平均価格の動き



10月

☆鮮魚 取扱数量 16,929 t (対前年比 88.1%)  
 平均価格 941円 ( " 31円高)

取扱数量では、マグロが国内物が 3.8割増、輸入物が 3.5割減、メバチ(国内)が 1.9割増、キワダは輸入物が 1.6割増、国内物が 2.6割減、メジは 8.4割減となった。カツオは 5.7割増、キンメタイは 4.1割増となった。マタイは、養殖物の 6割増に対し、天然物が 2.9割減、輸入物が 1.5割減となった。スルメイカは 3.9割減、ハマチが 3割減、サンマが 1.7割減となった。平均価格では、メジが 8.1割高、キワダ(国内)が 5.4割高、スルメイカが 4.6割高、ハマチが 1.9割高となった。メバチ(輸入)は 1.7割安、カツオが 2.3割安、キンメタイが 2.2割安、マイワシが 2割安、サバが 1.6割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,083 t (対前年比 100.7%)  
 平均価格 1,873円 ( " 57円安)

取扱数量では、活スズキが 1.5割増、活マタイが 1.4割増となった。活カンパチは 1.8割減、活カレイは 1.5割減となった。平均価格では、活カンパチが 2.8割高、活カレイが 1.3割高、活ハマチが 1.2割高となり、活スズキは 2.3割安、活マタイは 1.6割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,756 t (対前年比 99.0%)  
 平均価格 887円 ( " 74円安)

ハマグリ、サザエなどが増加したが、アサリ、アカ貝、アワビ、アオヤギなどが減少した。

☆冷凍魚 取扱数量 19,986 t (対前年比 96.5%)  
 平均価格 921円 ( " 105円安)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、ベニサケが 5.9割増で、全体では 1.4割増となった。冷タイ類は 2.2割減となった。冷イカ類は、国内スルメ 1.7割増も、モンゴウ 3.7割減などで、全体では 1.1割減となった。冷マグロ類は、キワダが 7.4割増となったが、メバチが減少して全体では 0.3割減となった。サンマは 2.3倍増となったが、キンメが 5.8割減、ニシンが 4.5割減、スリミが 4.1割減、ギンダラが 2.5割減となった。平均価格では、冷イカ類は、国内スルメが 3.5割高だが、全体では 0.7割安となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 2.8割安で、全体では 1.8割安、冷カレイ類が 1.6割安、冷エビ類が 1.2割安、冷マグ

全体で 1.5割増、塩蔵品は、塩シロサケが 3.9割増などで全体でも 1.4割増となった。素干品は、干スルメが減少して 1.6割減となった。平均価格では、煮干製品がシラス干が高く 1.9割高のほかは、焼物製品、素干品ともに 1割安、塩蔵品は、イクラが 2.1割高のほかは安く、全体で 0.4割安となった。

ロ類は 0.8割安となった。キンメが 1.7割高、ニシンが 1割高となり、タコが 3.2割安、スリミが 2.8割安、サバが 1.9割安、ギンダラが 1.6割安となった。

☆加工品 取扱数量 26,296 t (対前年比 98.4%)  
平均価格 848円 ( " 30円安)

取扱数量では、湯煮品が煮タコの増加で 1.5割増、煮干製品が 1割増となり、塩蔵品は、塩ベニサケ、イクラ等が増加したがギンサケ、スジコ等が減少して全体では 0.5割減となった。平均価格では、煮干製品はシラス干が 4.4割高で全体でも 3割高となったが、湯煮品は 1.8割安、塩蔵品もベニサケの 2.8割安など全般に安く、全体でも 0.6割安となった。

11月

☆鮮魚 取扱数量 16,327 t (対前年比 97.2%)  
平均価格 1,035円 ( " 31円高)

取扱数量では、マグロ(国内)が 5.6割増、メバチが国内、輸入とも 2割増となった。マタイは、養殖物は 5.5割増となったが、天然物は 2.5割減となった。カツオが 6.5割増、マイワシが 1.3割増となり、スルメイカは 3割減、ハマチが 1.8割減、キンメが 1.5割減となった。平均価格では、スルメイカが 4.4割高、キンメが 1.5割高、ハマチが 1.3割高となった。メジは 3.8割安、キワダ(国内)は 1.9割安、マグロは輸入物が 1.3割安、国内物が 0.9割安、メバチ(輸入)は 1割安、サンマも 1割安、サバは 0.9割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,133 t (対前年比 107.3%)  
平均価格 1,789円 ( " 67円高)

取扱数量では、活ハマチが 2.2割増、活マタイが 1.3割増となった。平均価格では、活アナゴ、活カンパチがともに 1.6割高となった。

☆貝類 取扱数量 5,857 t (対前年比 104.2%)  
平均価格 915円 ( " 60円安)

ハマグリ、サザエ、カキなどが増加したが、価格は全般に下がった。

☆冷凍魚 取扱数量 19,074 t (対前年比 100.5%)  
平均価格 943円 ( " 123円安)

取扱数量では、冷タイ類が 3.7割増、冷エビ類が 1.8割増。冷イカ類は、国内スルメが減少したが、ムキイカが増加し、全体では 0.3割増となった。冷マグロ類は、キワダが 3.2割増だが、全体ではほぼ前年並み。冷サケ・マス類は、シロサケ、ベニサケとも大幅に減って、全体で 3.3割減となった。サバが 5.3割増、サワラが 4.7割増、ギンダラは 3割増となった。タコは 3.4割減、スリミは 3割減となった。平均価格では、冷イカ類は、国内スルメが 3.5割

高、モンゴウも 1割高となり、全体で 1.4割高となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 3.1割安となり、全体で 2割安となった。冷タイ類は 2.9割安、冷カレイ類が 1.3割安、冷マグロ類が 1.2割安、冷エビ類は 1割安となった。サワラは 1.7割高、タコが 3.4割安、サバ、スリミがともに 2.6割安、ギンダラが 1.8割安となった。

☆加工品 取扱数量 25,688 t (対前年比 106.6%)  
平均価格 855円 ( " 93円安)

取扱数量では、湯煮品が煮タコの大幅増で 2.7割増となり、塩蔵品は、塩サケのほか品薄感のあったイクラが増加して、全体では 1割増となった。平均価格では、煮干製品は、シラス干が 2.8割高となり、全体で 2.4割高となった。塩蔵品は、アキサケが 4割安、イクラも 2.4割安などで、全体で 2割安となった。湯煮品も 2割安となった。

12月

☆鮮魚 取扱数量 16,629 t (対前年比 91.1%)  
平均価格 1,295円 ( " 68円高)

取扱数量では、マグロは国内物が 2.6割増、輸入物が 1.7割増、メジが 2割増となり、メバチは輸入物が 5.4割増だが国内物は 3割減、キワダ(国内)は 2.7割減となった。カツオは 4.2割増、マタイ(養殖)が 2.6割増、シロサケが 1.6割増、キンメは 1.1割増となった。スルメイカは 2.8割減、ハマチが 2.3割減、サンマが 2割減となった。平均価格では、スルメイカが 4.1割高、ハマチが 1.4割高、メバチは国内、輸入とも 1割高となった。キワダは輸入物が 1.4割高、国内物は 1.5割安、メジは 3.4割安、シロサケが 3割安、サバが 1.2割安、キンメは 1割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,466 t (対前年比 107.8%)  
平均価格 1,695円 ( " 59円安)

取扱数量では、活スズキが 1.7割増、活アナゴが 1.6割増、活ハマチは 1.5割増、活マタイが 1.3割増となった。活タコは 1.9割減となった。平均価格では、活タコが 1.8割高となり、活スズキが 1.8割安、活シマアジが 1.4割安となった。

☆貝類 取扱数量 6,498 t (対前年比 102.8%)  
平均価格 1,016円 ( " 117円安)

ハマグリ、サザエ、アオヤギ、アカ貝などが増加した。

☆冷凍魚 取扱数量 22,281 t (対前年比 98.5%)  
平均価格 1,170円 ( " 96円安)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、ベニサケが 5.4割増で、全体では 0.3割増となった。冷マグロ類は、キワダが 3.3割増、インドが 1.8割増となったが、メバチが伸びず、全体では微増にとどまった。冷カレイ類は 1.8割減となった。冷イカ類は、モンゴウの 2.7割増に対し、ムキイカの

図5-1 加工品取扱数量の動き

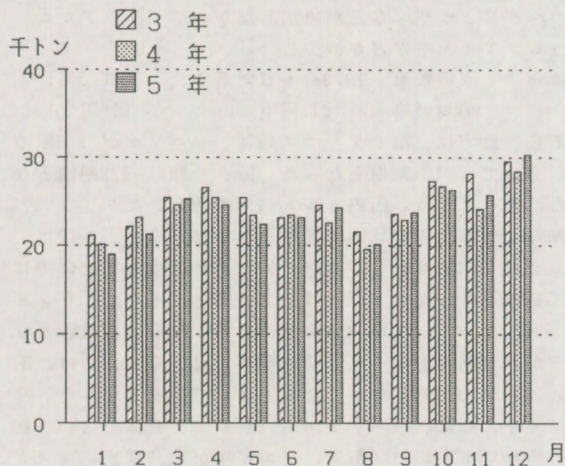
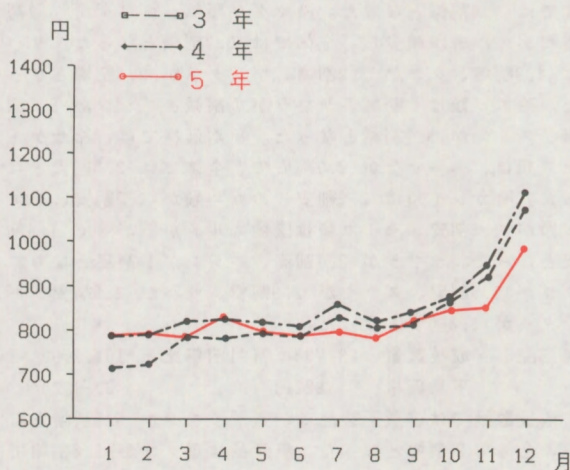


図5-2 加工品平均価格の動き



大幅減で、全体では 0.4割減となった。ギンダラが 1.5割増、サバが 1.3割増となり、スリミは 4.8割減、キンメが 4.1割減となった。平均価格では、冷イカ類は、ムキイカが 4.8割高、国内スルメも 4.6割高で、全体では 1.1割高となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 3.2割安で、全体では 2.1割安となった。冷カニ類は 1.3割安、冷マグロ類は、キワダが 2.1割安で、全体で 0.6割安となった。キンメは 1.3割高、サワラが 1.1割高で、タコは 3.5割安、サバが 2.7割安、スリミが 1.8割安、ギンダラが 1.5割安となった。

☆加工品	取扱数量	30,260 t (対前年比 106.6%)
	平均価格	992円 ( " 123円安)

取扱数量では、湯煮品は、煮タコの増加で 1.6割増となり、塩蔵品は、塩サケが増減まちまちだがアキサケの大幅増、イクラの 2.4割増などで、全体では 1.5割増となった。煮干製品は、シラス干が 1割減で、全体では 1.4割減となった。素干品は、干スルメが 1.8割減で、全体で 1割減となった。平均価格では、煮干製品は、シラス干が 1.7割高で、全体で 2.2割高となった。湯煮品は 2割安、塩蔵品は塩サケが大幅安、イクラも 3割安などで、全体では 1.8割安となった。練製品は 0.9割安となった。正月用品は、全般に単価安の傾向が顕著になり、不況に苦しむ台所事情を反映した年末の取引状況であった。

## 2. 主要品目の取扱高

### (1) マグロ類

5年の生鮮マグロ類の取扱量は、メバチ(輸入)は 3.9割増、マグロは輸入物が 2.3割増、国内物が 2.2割増となったが、メジが半減したほか、メバチ(国内)は 1.8割減、キワダは国内物が 1.8割減、輸入物も 0.7割減となった。全体では 0.5割増となった。平均価格では、メジが 372円高となったほかは、マグロは輸入物が 437円安、国内物が 279円安、メバチ(輸入)が 219円安となり、全体では、30円安となった。

冷凍マグロ類の取扱量は、冷キワダは 5割増となったが、冷メバチが 0.9割減、冷ホンマグロも 1.9割減となり、全体では 0.8割減となった。平均価格では、冷メバチが 87円高、冷ホンマグロも 360円高となり、全体では 87円高となった。

### (2) マアジ

入荷順調で取扱量は前年をわずかに上回った。平均価格は 548円で、16円安となった。

### (3) サバ

生鮮品は、本年も入荷は減少して 0.3割減となった。平均価格は 572円で、21円安となった。冷サバは 0.8割減少し、平均価格は 244円で、74円安となった。

### (4) マイワシ

取扱数量は、前年比 0.5割減となった。平均価格は 248円で、13円安となった。

### (5) カツオ

本年は大豊漁で、取扱数量は 4.5割増となった。平均価格は 487円で 253円安となった。

### (6) サンマ

前年まで好漁が続いていたが、本年は数量では 1.9割減となった。平均価格は 333円で、11円高となった。

### (7) スルメイカ

生鮮物の出回りは一段落となり、数量では 1.3割減となった。平均価格は 425円で、11円高となった。冷凍物は、全体では 2.5割増となった。平均価格は、SA物が 66円安、国内物が 46円安となり、全体では、49円安となった。

### (8) 養殖ハマチ

本年も減少傾向が止まらず、数量も 2割減となった。平

均価格は、夏場の高値もあって年間では 1,101円となり、126円高となった。

### (9) サケ・マス類

生鮮サケ・マス類は、ギンサケが 1.2割減となったが、シロサケが 1割増、輸入物が 4割増と増加し、全体では、1.5割増となった。平均価格では、シロサケが 159円安、ギンサケが 118円安、輸入物が 291円安となり、全体では 162円安となった。

冷凍サケ・マス類は、冷シロサケが 3.8割減、冷ベニサケが 2.1割減、冷ギンサケも 1.5割減と全般に減少し、全体では 1.9割減となった。平均価格では冷ベニサケが 373円安、冷ギンサケが 140円安となり、全体では 219円安となった。

### (10) 魚卵

イクラは、原卵の不足による品薄感から高値が続き、年間では数量は 0.6割減で、価格は 755円高となった。スジコは 0.3割減で 237円安、スケコは 1.3割増で 262円安となった。

### (11) エビ類

生鮮エビ類は、クルマエビの輸入物が 7.7割減、国内物が 4.7割減、マキエビが 3.4割減、国内イセエビが 1.9割減になるなど大幅な減少が目立ち、全体でも 2.2割減となった。平均価格では、イセエビの国内物が 583円安、輸入物が 364円安のほかは、クルマエビは輸入物が 2,904円高、国内物が 2,190円高、マキエビが 2,580円高となり、全体では 276円高となった。

冷凍エビ類は、インドネシア物は 0.8割増となったが、オーストラリア物とフィリピン物が 2割減、タイ物が 1.7割減、冷アカエビが 1.6割減で、全体では 0.7割減となった。平均価格では、冷イセエビ(輸入)が 1,027円安、国内物も 692円安、冷アカエビが 337円安、タイ物が 112円安で、全体では、75円安となった。

### (12) 加工品類

塩サケは、塩ベニサケが 2.4割増で 404円安、塩アキサケが 0.9割減で 141円安となった。開干アジは、わずかに減少して 39円安。シラス干は、数量はほぼ前年並みだが、412円高。蒲焼ウナギは冷夏の影響で 0.4割減で 177円高。干スルメはわずかに増加し、価格は国内物が 87円安、SA物が 226円安。練製品は、年末にチクワ、カマボコなどが数量はこなしたものの単価安で、全体では 0.3割増で 39円安。煮タコは 1.9割増で 265円安となった。

## 3. 市場別取扱高

### (1) 築地市場

総取扱高は 683,173 t で、前年比 97% と減少 (20,996 t 減) し、総取扱金額は 656,884 百万円で、前年比 93% と減少 (50,796 百万円減) した。類別に見ると、鮮魚の取扱数量は 157,636 t (5,719 t 減) で、前年比 97% となり、取扱金額は 168,391 百万円 (7,964 百万円減) で、96% 減となった。活魚の取扱数量は 12,080 t (17 t 減) で、前年からわずかに減となり、取扱金額は 23,180 百万円 (75 百万円減) で、わずかに減となった。冷凍魚の取扱数量は 199,924 t (15,774 t 減) で前年比 93% となり、取扱金額は 203,293 百万円 (31,752 百万円減) で、前年比 87% となった。加工品の取扱数量は 253,044 t (2,450 t 増) で、前年比 101% となり、取扱金額は 205,779 百万円 (6,644 百万円減) で、前年比 97% となった。貝類の取扱数量は、49,218 t (1,445 t 減) で、前年比 97% となり、取扱金額は、49,218 百万円 (3,799 百万円減) で、前年比 93% となった。淡水魚の取扱数量は 3,188 t (648 t 減) で、前年比 83% となり、取扱金額は 4,344 百万円 (407 百万円減) で、前年比 91% となった。海藻類の取扱数量は 6,519 t (158 t 増) で、前年比 103%

となり、取扱金額は 2,680 百万円 (153 百万円減) で前年比 95% となった。

## (2) 足立市場

総取扱高は、61,890 t で、前年比 94% と減少 (4,161 t 減) し、総取扱金額は、55,717 百万円で、前年比 91% と減少 (5,750 百万円減) した。類別に見ると、鮮魚の取扱数量は 15,310 t (1,221 t 減) で、前年比 93% となり、取扱金額は 12,651 百万円 (847 百万円減) で、前年比 94% となった。活魚の取扱数量は 910 t (62 t 増) で、前年比 107% となり、取扱金額は 1,378 百万円 (184 百万円増) で、前年比 115% となった。冷凍魚の取扱数量は、15,245 t (2,325 t 減) で前年比 87% となり、取扱金額は、14,362 百万円 (2,856 百万円減) で前年比 83% となった。加工品の取扱数量は 23,456 t (839 t 減) で、前年比 97% となり、取扱金額は、21,729 百万円 (2,116 百万円減) で前年比 91% となった。貝類の取扱数量は 5,834 t (127 t 増) で前年比 102% となり、取扱金額は 4,758 百万円 (118 百万円減) で前年比 98% となった。淡水魚の取扱数量は 354 t (15 t 減) で前年比 96% となり、取扱金額は 464 百万円 (1 百万円減) で前年並みとなった。海藻類の取扱数量は 782 t (50 t 増) で前年比 107% となり、取扱金額は 375 百万円 (1 百万円増) で前年並みとなった。

## (3) 大田市場

総取扱高は、37,719 t で前年並み (18 t 増)、総取扱金額は、35,602 百万円で、前年比 99% とわずかに減少 (213 百万円減) した。類別に見ると、鮮魚の取扱数量は 13,285 t (1,006 t 増) で、前年比 108% となり、取扱金額は 11,081 百万円 (726 百万円増) で、前年比 107% となった。活魚の取扱数量は 632 t (167 t 増) で、前年比 136% となり、取扱金額は 1,118 百万円 (218 百万円増) で前年比 124% となった。冷凍魚の取扱数量は、11,506 t (1,493 t 減) で、前年比 89% となり、取扱金額は、11,410 百万円 (945 百万円減) で前年比 92% となった。加工品の取扱数量は 9,483 t (132 t 増) で、前年比 101% となり、取扱金額は 9,364 百万円 (345 百万円減) で、前年比 96% となった。貝類の取扱数量は 2,256 t (284 t 増) で、前年比 114% となり、取扱金額は 2,143 百万円 (138 百万円増) で、前年比 107% となった。淡水魚の取扱数量は 207 t (15 t 減) で、前年比 93% となり、取扱金額は 317 百万円 (5 百万円増) で、前年比 102% となった。海藻類の取扱数量は 350 t (62 t 減) で、前年比 85% となり、取扱金額は 169 百万円 (10 百万円減) で前年比 94% となった。

## 4. 卸売業者別取扱高

### <築地市場>

#### (1) 大都魚類 (株)

総取扱数量は 142,991 t で、前年からわずかに減ながら、トップに立った。総取扱金額は 134,969 百万円で、前年比 94% と減少した。類別には、数量では、加工品は 6% 増加 (1,673 t 増)、活魚は 4% 増加 (121 t 増)、冷凍魚は 3% 増加 (1,946 t 増) となった。鮮魚は 11% 減少 (4,109 t 減) となった。金額では、活魚は 2% 増加 (142 百万円増) となった。鮮魚は 11% 減少 (4,119 百万円減)、冷凍魚は 8% 減 (4,460 百万円減)、貝類は 2% 減少 (305 百万円減) となった。

#### (2) 中央魚類 (株)

総取扱数量は 140,807 t で、前年比 98% とやや減少し、総取扱金額は 154,540 百万円で、前年比 94% と減少した。取扱数量は首位を明け渡したが、金額は本年もトップとなった。類別には、数量では、鮮魚が 2% 増加 (636 t 増) となった。冷凍魚は、4% 減少 (2,217 t 減)、活魚が 4% 減少 (133 t 減)、貝類が 4% 減少 (559 t 減)、加工品もわずかに減

となった。金額では、冷凍魚が 10% 減少 (7,256 百万円減) 貝類が、9% 減少 (1,046 百万円減)、加工品が、6% 減少 (1,941 百万円減)、鮮魚もわずかに減少となった。

#### (3) 東都水産 (株)

総取扱数量は 128,877 t で、前年比 91% と減少し、総取扱金額は 136,719 百万円で、前年比 88% と減少した。類別には、数量では、冷凍魚は 21% 減少 (12,282 t 減)、貝類は 7% 減少 (495 t 減)、活魚は 2% 減少 (39 t 減) となった。金額では、冷凍魚は 24% 減少 (14,617 百万円減)、貝類は 9% 減少 (721 百万円減)、加工品は 5% 減少 (1,910 百万円減)、鮮魚も、3% 減少 (1,506 百万円減) した。

#### (4) 築地魚市場 (株)

総取扱数量は 127,162 t で、前年比 96% と減少し、総取扱金額は 117,173 百万円で、前年比 94% と減少した。類別には、数量では、加工品が 5% 減少 (2,573 t 減)、鮮魚は 4% 減少 (1,336 t 減)、冷凍魚は 4% 減少 (1,222 t 減)、貝類も 3% 減少 (242 t 減) となった。金額では、冷凍魚が 9% 減少 (3,176 百万円減)、貝類が 7% 減少 (598 百万円減)、鮮魚が 4% 減少 (1,332 百万円減)、加工品も 4% 減少 (1,430 百万円減) となった。

#### (5) 第一水産 (株)

総取扱数量は、56,452 t で、前年比 96% と減少し、総取扱金額は、54,060 百万円で、前年比 92% と減少した。類別には、数量では、加工品が 3% 増加 (567 t 増)、冷凍魚は 16% 減少 (1,998 t 減)、鮮魚は 3% 減少 (499 t 減)、貝類も 3% 減少 (267 t 減) となった。金額では、冷凍魚は、18% 減少 (2,244 百万円減)、貝類が 10% 減少 (1,129 百万円減)、鮮魚が 4% 減少 (732 百万円減)、冷凍魚も 4% 減少 (613 百万円減) となった。活魚は、他社に比較すればまだ少ないものの、数量で 7 倍、金額で 4 倍となった。

#### (6) 丸千千代田水産 (株)

総取扱数量は、71,613 t で、前年比 106% と増加し、総取扱金額は、45,085 百万円で、前年比 99% とわずかに減少した。加工品の取扱としては、数量・金額ともに昨年に続きトップとなった。類別には、数量では、加工品が 6% 増加 (3,811 t 増)、海藻類もわずかに増加した。金額では、加工品は 1% 減少 (341 百万円減) となり、海藻類も 4% 減少 (21 百万円減) となった。

#### (7) 総合食品 (株)

総取扱数量は、15,272 t で、前年比 96% と減少し、総取扱金額は、14,338 百万円で、前年比 97% と減少した。類別には、数量では、加工品は 4% 減少 (658 t 減)、海藻類は 14% 減少 (42 t 減) となった。金額では、加工品は 3% 減少 (389 百万円減)、海藻類も 9% 減少 (4 百万円減) となった。

### <足立市場>

#### (1) 東京北魚 (株)

総取扱数量は、23,321 t で、前年比 96% と減少し、総取扱金額は、19,670 百万円で、前年比 91% と減少した。類別には、数量では、貝類は 5% 増加 (114 t 増)、活魚が 3% 増加 (12 t 増) となったが、鮮魚は 8% 減少 (421 t 減)、冷凍魚が 8% 減少 (420 t 減)、加工品が 2% 減少 (250 t 減) となった。金額では、活魚は 11% 増加 (46 百万円増) となったが、冷凍魚は 19% 減少 (955 百万円減)、加工品が 8% 減少 (795 百万円減)、鮮魚は 6% 減少 (235 百万円減) となった。

#### (2) 大都魚類 (株) 千住支社

総取扱数量は、20,964 t で、前年比 94% と減少し、総取扱金額は、18,563 百万円で、前年比 88% と減少した。類別には、数量では、活魚は 19% 増加 (34 t 増) し、貝類は 5% 増加 (89 t 増) となった。加工品は 7% 減少 (602 t 減) 冷凍魚が 7% 減少 (436 t 減)、鮮魚も 7% 減少 (407 t 減) となった。金額では、活魚は 26% 増加 (74 百万円増)、貝類は

3%増加(51百万円増)したが、冷凍魚は20%減少(1,336百万円減)、加工品が14%減少(1,162百万円減)、鮮魚は8%減少(344百万円減)となった。

### (3) 中央魚類(株)千住支社

総取扱数量は、17,605tで、前年比90%と減少し、総取扱金額は、17,484百万円で、前年比94%と減少した。類別には、数量では、活魚は5%増加(16t増)、加工品もわずかに増加した。冷凍魚は24%減少(1,468t減)、鮮魚が6%減少(393t減)、貝類も4%減少(76t減)となった。金額では、活魚は13%増加(64百万円増)したが、冷凍魚は10%減少(565百万円減)、貝類が8%減少(135百万円減)、鮮魚が5%減少(269百万円減)、加工品も3%減少(159百万円減)となった。

## <大田市場>

### (1) 東京大田魚市場(株)

総取扱数量は、20,761tで、前年比104%と増加し、総取扱金額は、20,288百万円で、前年比103%と増加した。類別には、数量では、鮮魚は7%増加(506t増)、貝類も7%増加(60t増)、冷凍魚は5%増加(307t減)となった。加工品は、わずかに減少となった。金額では、鮮魚は11%増加(668百万円増)、活魚も11%増加(23百万円増)、冷凍魚は2%増加(125百万円増)となった。加工品は、3%減少(209百万円減)となった。

### (2) (株)大田台水

総取扱数量は、16,958tで、前年比96%と減少し、総取扱金額は、15,314百万円で、前年比95%と減少した。類別には、数量では、活魚は45%増加(162t増)、貝類が20%増加(225t増)、鮮魚が10%増加(500t増)、加工品も4%増加(146t増)となったが、冷凍魚は24%減少(1,800t減)となった。金額では、活魚は28%増加(196百万円増)、貝類が12%増加(122百万円増)、鮮魚が2%増加(59百万円増)となり、冷凍魚は17%減少(1,070百万円減)、加工品は4%減少(136百万円減)となった。

## 4. 卸売業者別取扱高

### <買付比率>

全体の買付比率は、数量では、48.8%と前年を0.4%下回り、金額では、47.6%と前年を1.5%下回った。市場別に見ると、築地市場の買付比率は、数量では、48.7%と前年を0.1%下回り、金額では、46.4%と前年を1.4%下回った。足立市場の買付比率は、数量では、43.8%と、前年を1.9%下回り、金額では、51.3%と前年を2.9%下回った。大田市場の買付比率は、数量では59.2%と前年を3.3%下回り、金額では、63.0%と前年を2.0%下回った。

卸売業者別に見ると、大都魚類は、数量では、49.7%と前年を0.5%上回り、金額では、45.4%と前年を0.8%下回った。中央魚類は、数量では、50.2%と前年を0.5%上回り、金額では、46.9%と前年を1.0%下回った。東都水産は、数量では、47.4%と前年を3.4%下回り、金額では45.5%と前年を4.6%下回った。築地魚市場は、数量では36.1%と前年を0.6%上回り、金額では、34.7%と前年を0.8%下回った。第一水産は、数量では、36.4%と前年を1.6%下回り、金額では、40.7%と前年を0.6%下回った。丸千代田水産は、数量では、80.9%で前年を0.8%上回り、金額では、85.0%と前年を1.6%上回った。総合食品は、数量では、35.3%と前年を2.0%下回り、金額では、55.6%と前年を1.8%下回った。

東京北魚は、数量では、43.2%と前年とほぼ同じ、金額では、54.5%と前年を2.2%下回った。大都魚類千住支社は、数量では、42.9%と前年を1.7%下回り、金額では、49.6%と前年を4.3%下回った。中央魚類千住支社は、数

量では、45.9%と前年を4.1%下回り、金額では、49.5%と前年を2.3%下回った。

東京大田魚市場は、数量では、59.2%と前年を2.5%下回り、金額では、66.0%と前年を0.8%下回った。大田台水は、数量では、59.1%と前年を4.3%下回り、金額では58.9%と前年を3.9%下回った。

## 5. 出荷地別取扱高

### (1) 総取扱高

都道府県別の取扱高数量のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位千葉・4位宮城・5位北海道・6位三重・7位愛知・8位青森・9位神奈川・10位福島で、前年の6位と8位が入れ替わった。取扱高金額のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位北海道・4位千葉・5位宮城・6位神奈川・7位愛知・8位大阪・9位三重・10位青森で、前年の7位と8位が入れ替わった。

### (2) 鮮魚取扱高

前年に続き東京が1位、以下2位千葉・3位宮城・4位北海道・5位青森まで前年と同じ。三重が6位に上がり、7位静岡・8位長崎・9位鹿児島となり、10位に鳥取が入った。

### (3) 冷凍取扱高

東京が前年に続き1位となった。2位静岡・3位青森・4位宮城・5位大阪・6位千葉・7位神奈川・8位北海道・9位福岡・10位愛知となった。神奈川が5位から下がり長崎に替わって愛知が入った。

### (4) 加工品取扱高

これも、東京が前年に続き第1位となった。2位千葉・3位静岡・4位宮城、5位北海道・6位福島・7位愛知・8位茨城・9位三重・10位兵庫となった。6位と7位、8位と9位がそれぞれ入れ替わった。

表 1 年次別取扱高

(単位：トン・千円・%)

	5 年	4 年	3 年	2 年	元年	63年	62年
総数量 前年比	782,782 96.9	807,920 97.0	832,532 98.3	847,319 97.7	867,538 98.4	882,040 99.1	889,831 102.9
総金額 前年比	748,202,651 92.9	804,962,014 97.4	826,250,552 97.9	843,694,370 103.7	813,943,824 102.8	791,664,123 102.2	774,701,487 105.1

表 2-1 年次別魚種別取扱数量

(単位：トン・%)

年次 魚種	5 年		4 年		3 年		2 年		元年		前年比					5年 / 60年
	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	5年	4年	3年	2年	元年	
総数	782,782	100.0	807,920	100.0	832,532	100.0	847,319	100.0	867,538	100.0	96.9	97.0	98.3	97.7	98.4	92
鮮魚	186,230	23.8	192,165	23.8	181,416	21.8	173,388	20.5	176,894	20.4	96.9	105.9	104.6	98.0	95.4	—
活魚	13,622	1.7	13,411	1.7	12,900	1.5	12,582	1.5	12,036	1.4	101.6	104.0	102.5	104.5	—	—
貝類	58,873	7.5	59,906	7.4	59,280	7.1	61,195	7.2	62,588	7.2	98.3	101.1	96.9	97.8	93.3	87
冷凍魚	226,675	29.0	246,266	30.5	268,264	32.2	285,557	33.7	292,752	33.7	92.0	91.8	93.9	97.5	95.8	78
淡水魚	3,748	0.5	4,427	0.5	4,535	0.5	4,242	0.5	4,362	0.5	84.7	97.6	106.9	97.2	96.8	74
海藻類	7,651	1.0	7,505	0.9	7,672	0.9	7,779	0.9	7,221	0.8	101.9	97.8	98.6	107.7	93.1	107
加工品	258,983	33.1	284,240	35.2	298,465	35.9	302,575	35.7	311,685	35.9	91.1	95.2	98.6	97.1	100.1	85

表 2-2 年次別魚種別取扱金額

(単位：百万円・%)

年次 魚種	5 年		4 年		3 年		2 年		元年		前年比					5年 / 60年
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	5年	4年	3年	2年	元年	
総数	748,203	100.0	804,962	100.0	826,251	100.0	843,694	100.0	813,944	100.0	92.9	97.4	97.9	103.7	102.8	102
鮮魚	192,123	25.7	200,208	24.9	197,486	23.9	192,274	22.8	182,021	22.4	96.0	101.4	102.7	105.6	96.5	—
活魚	25,677	3.4	25,348	3.1	26,053	3.2	26,635	3.2	24,421	3.0	101.3	97.3	97.8	109.1	—	—
貝類	56,178	7.5	59,899	7.4	62,397	7.6	62,731	7.4	59,326	7.3	93.8	96.0	99.5	105.7	108.5	120
冷凍魚	229,065	30.6	264,618	32.9	282,598	34.2	306,173	36.3	293,484	36.1	86.6	93.6	92.3	104.3	98.8	81
淡水魚	5,125	0.7	5,526	0.7	5,885	0.7	5,587	0.7	5,751	0.7	92.7	93.9	105.3	97.1	105.5	77
海藻類	3,223	0.4	3,386	0.4	3,405	0.4	3,144	0.4	2,815	0.3	95.2	99.4	108.3	111.7	100.8	123
加工品	236,872	31.7	245,977	30.6	248,427	30.1	247,150	29.3	246,126	30.2	96.3	99.0	100.5	100.4	101.6	104

表 2-3 年次別魚種別平均価格

(単位：キロ当り円・%)

年次 魚種	5 年		4 年		3 年		2 年		元年		対 60 年指数				
	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	5年	4年	3年	2年	元年
総数	956	96.0	996	100.4	992	99.6	996	106.2	938	104.5	111	115	115	115	109
鮮魚	1,032	99.0	1,042	95.7	1,089	98.2	1,109	107.8	1,029	101.2	—	—	—	—	—
活魚	1,885	99.7	1,890	93.6	2,020	95.4	2,117	104.3	2,029	—	—	—	—	—	—
貝類	953	95.8	1,000	95.0	1,053	102.7	1,025	108.1	948	116.5	137	144	151	147	136
冷凍魚	1,011	94.0	1,075	102.1	1,053	98.2	1,072	106.9	1,003	103.2	104	110	108	110	103
淡水魚	1,368	109.6	1,248	96.2	1,297	98.5	1,317	99.9	1,318	108.9	104	95	99	100	100
海藻類	421	93.3	451	101.6	444	109.9	404	103.6	390	108.3	115	123	121	110	106
加工品	828	95.7	865	104.0	832	101.8	817	103.4	790	101.5	110	115	110	108	105

注：平成元年から活魚類を大分類とし、鯨類は削除、生鯨は鮮魚類へ、冷凍鯨は冷凍魚類へ区分した。

表 3 - 1 市場別・年次別取扱数量

(単位: トン・円)

市場	年次 区分	5 年		4 年		3 年		2 年		元 年	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
総 数	数 量	782,782	100.0	807,920	100.0	832,532	100.0	847,319	100.0	867,538	100.0
	前年比	96.9		97.0		98.3		97.7		98.4	
築 地	数 量	683,173	87.3	704,169	87.2	725,178	87.1	747,355	88.2	781,739	90.1
	前年比	97.0		97.1		97.0		95.6		97.2	
足 立	数 量	61,890	7.9	66,051	8.2	66,833	8.0	66,508	7.8	72,052	8.3
	前年比	93.7		98.8		100.5		92.3		103.3	
大 田	数 量	37,719	4.8	37,701	4.7	40,521	4.9	33,456	3.9	13,748	1.6
	前年比	100.0		93.0		121.1		243.4		167.6	

表 3 - 2 市場別・年次別取扱金額

(単位: 百万円・%)

市場	年次 区分	5 年		4 年		3 年		2 年		元 年	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
総 数	金 額	748,203	100.0	804,962	100.0	826,251	100.0	843,694	100.0	813,944	100.0
	前年比	92.9		97.4		97.9		103.7		102.8	
築 地	金 額	656,884	87.8	707,680	87.9	729,761	88.3	755,004	89.5	742,239	91.2
	前年比	92.8		97.0		96.7		101.7		101.9	
足 立	金 額	55,717	7.4	61,467	7.6	59,949	7.3	57,927	6.9	58,006	7.1
	前年比	90.6		102.5		103.5		99.9		104.2	
大 田	金 額	35,602	4.8	35,815	4.4	36,540	4.4	30,763	3.6	13,699	1.7
	前年比	99.4		98.0		118.8		224.6		175.4	